

JAAC だより

～ 新卒者を襲う“採用内定取消し”通知 (後編) ～

— こんな時代だからこそ、留学生の強みを活かそう —

前号において、文部科学省が平成 21 年 3 月新規卒業予定者における採用内定取消し者数の状況を資料にまとめたお話をしました。私は 2 月に某企業に勤める私の友人と、東京の某大学の就職キャリアセンターのご担当者とお会いし、企業の採用内定取消しについて色々とお話をする機会を得ました。今回は、そのお二人から得たことを私なりにまとめて、JAAC 留学生の皆さんにお伝えしてまいりたいと思います。

海外大学卒業者を毎年採用している某企業に勤める私の友人から、『こんな時代だからこそ、本当に必要な人材を確保したい・・・(中略)・・・偶然にも結果的には海外大学卒業者(及び卒業予定者)に対する採用内定取消しの比率が、日本の大学卒業生に対する内定取消しの比率よりも少なかった・・・』という話を聞きました。かつて、その私の友人も 1980 年代半ばに企業派遣研修生としてアメリカに留学し、MBA(経営学修士号)を取得していました。以来、同社に勤める多くの海外大学卒業者を同僚や部下としながら働いてきました。個人的な性格もあるでしょうが、一般的に留学経験者は何事にも立ち向かう、という姿勢を強く持っているようです。何か問題が生じた時、『・・・どうしよう。どうしたら良いだろう』と考え悩むよりも、『それじゃあ、・・・こうしてみようか』と、前向きに考えた提案を上司に報告・相談する姿勢が大事ですね。いわゆる、自ら問題を処理していく能力が必要とされているわけです。また、『“100年に一度の経済危機”と騒がれているが、100年前からコンピューターが存在していたわけではない。今回の経済危機はコンピューターによるバーチャル(実体を伴わない仮想的、又は擬似的なこと)・マネーを根源とし、結果的に経済危機に陥った・・・(中略)』と、同氏は言っています。私もその通りだと思っています。つまり、今回の経済危機の要因は過去の事例とは異なり、正常な経済活動の中で起きたものとは違うと思います。いずれにしても、世界的な経済危機に陥っていることに変わりはなく、このような状況の中では企業側も従来の採用を行うことはできません。このようにグローバル化が進んだ今日、多くの企業は何らかの形で外国企業との関わりを持っています。そこには、『日本で暮らしていただけでは分からない何かを知っている(だろうと思われる)』海外留学経験者はとても貴重な存在になり得ます。経済活動の行われ方が欧米化している今日、欧米で専門知識を学んだ学生に期待されるのは当然でしょうね。

一般的に、留学経験者に対する期待度が高まっているという傾向は日本の大学関係者からも認めているところです。『年々、期間の長短を問わず認定留学と言われている留学スタイルによって海外の指定校や姉妹校に留学する学生は増えています・・・(中略)』と、就職キャリアセンターのご担当者は仰っています。“認定留学”という留学スタイルでは、日本の大学に籍を置く日本の大学生でありながら、海外の大学の授業を受けることができ、かつその単位も在籍する日本の大学によって認められるものです。さらに同氏は、『この経済不況の中での就職活動は特に厳しさが増し、・・・(中略)・・・3年生になった学生は落ち着いて勉強もできないでしょう・・・(中略)』とも言っています。ある調査によると、日本の4年制大学に通う文科系学生が、本来の勉強に費やす期間は平均 2.8 年と言われています。それに対して、アメリカの大学生は専攻学部に関係なくほぼ4年間の勉強が強いられ、絶対的に学習する量と時間が違うことが見てとれます。これらを是正するためにも、文部科学省では就職活動の時期やシステムそのものを見直す検討を進めています。

また、同氏は『日本の学生の多くは就職する企業名を気にしながら就職活動をせざるを得ない傾向にある』、というお話をされました。学生の間で交わされる話題は“何ていう会社に決まったの?”、ということに終始しているようです。確かに、以前は(その昔は)、“寄らば大樹の陰”ということばかり大企業に就職することが好まれ、何をするか(どの課に行くか)は入社してから決められることでした。しかし、その当時の大企業のいくつかは既に倒産している事実もあります。大企業だから・・・、という安心感にははや持てないのではないのでしょうか。

就職先を企業の大小や有名無名で決めることは、どことなく大学受験の延長を感じますね。これは、新入社員が就職後1年以内に離職する率が年々増加してきたことと関係があるように思います。職種の専門化(専門性)が進んできている今日、私はかねてより JAAC 生に対して、“何をしたい人になりたいのか?”ということを考えなさい、と言いつづけています。それは、職業を選択する最も基本的なことだからです。就職のプロセスとして、まず自分がやりたい(なりたい)と思う職業を決め、その職業に就くための企業を探してほしいと思っています。英語で聞かれる、“What’s your profession?”は『あなたの職業はなんですか?』と、尋ねていることです。裏を返せば、『あなたは何かができますか?』と、同じことです。これに対して、『私は〇〇会社の社員です』とは答えませんよね。皆さんは、日本の大学生が持ち得ない多くのものを持っています。そして、皆さんに秘められている可能性に期待しています。(カリフォルニア事務局 照井)

コラム：『ミズーリ通信』特別寄稿

一 日本語的英語表現の魅力と不思議さ 一

(JAAC ミズーリ事務局ディレクター：ライモン・ピットマン)

何年もの間に渡って、和製英語というよりは「日本語的英語表現」ともいべき英語を聞いている者として、私は特異な言語現象として「日本語的英語表現」への深い興味を持ちました。「日本語的英語表現」とは、日本語を母国語とする人たちだけによって通常用いられる、独特な英語表現の形態です。

この独特な「日本語的英語表現」が使われるのは、単なる日本人による誤った表現ではありません。一例を挙げてみましょう。ある日本人が「**solving problems** (問題を解決する)」と言うべきところを、「**soluting problems**」と表現しました。このように表現するには、それなりの理論的な理由があるんです。この学生は、「**solution** (解決)」という単語の名詞形から語尾の「**-ion**」を取り、動詞としての「**solute**」を考え出して、その語に「**-ing**」を付けたのでした。実際には、「**solute**」は「溶質」という意味を持つ語となり、本来の「**solution** (解決)」とは異なる意味になってしまいます。この考え方はとても独創的であり、かつ興味深いものですが、これは「日本語的英語表現」とは言えません。その理由として、このように「**solute**」を動詞として使う日本人は、私が知っている限りにおいて「その学生ただ1人」だからです。

「日本語的英語表現」として認識されるためには、その語句が多くの異なる人々によって繰り返し使われ、かつ常に同じ意味を表す語句として使われなくてはなりません。さらに言えば、その表現方法が何年にも渡って繰り返し使われていなければならないのです。実際に、「日本語的英語表現」の表現例は非常に数多くあるものです。時として、日本人学生達はこのような表現をします。例えば、学校に歩いて来ることを「**by walk**」と言ったり、スキーをすることを「**play ski**」と表現することがあります。このように表現したい気持ちはわかりますが、文法的にもこのような表現はありませんし、また英語を母国語とするネイティブは、このような表現は絶対にしません。また、ここで言う「日本語的英語表現」とは異なる趣旨の表現方法で、むしろ『和製英語』と言われる表現例ですが、車の進行方向を変えるハンドルのことをそのまま「**handle**」と言う学生もいます。これも同様に、ネイティブはこのような表現はしません。また、別の例を挙げると、日本人にとっての「**midnight**」は「深夜」や「真夜中」というようにやや広義的にある状況を表す意味で使うことが多いようですが、英語本来の意味からすると、「暦の上で日にちが翌日になる時点」を表す語句で、つまりは午前12時という時そのものを表すことなのです。

時々、「日本語的英語表現」の中にはその用法を打ち消し難いような論理がある、と思うことがあります。馬鹿げていると思われるような表現例ですが、その実例を挙げてみましょう。それは、「**get naked** (裸になる)」という表現です。ある時、一人の学生が、『とても天気良かったので公園で「**got naked** (裸になった)」』と言いました。実は、彼は「シャツを脱いで少し日焼けをする」ということを言いたかったのです。私は何年もの間、多くの学生がこの表現を使っているところを聞いてきました。これは英語を母国語とする者にとっては、「ハッと、ビックリするほど驚く」表現なのです。「服を脱ぐ」という表現は「日本語的英語表現」でも、英語本来の表現からも、その意味自体は同じことです。しかしながら、『公園で「**get naked** (裸になる)」する』と言う表現は、日本人学生にとっては「一部の衣服を脱ぐ」ことを意味しているのでしょうか、英語を母国語とするネイティブにとっては「全ての衣服を脱ぐ」、ということの意味するものなのです。

次に、とても重要な意味を持つ例を挙げてみたいと思います。それは、「**common sense**」という表現です。「**common sense**」の持つ意味は、「日本語的英語表現」と英語本来の表現方法とは全く意味を同じくしていません。「日本語的英語表現」における「**common sense**」は、ある情報や考え方などからほぼ万人が共有している『一般的な常識』という意味を持っています。例えば、誰もが家に上がる際には靴や履物を脱いでから家に上がることが一般常識になっているのは、誰もがそのようにすべきである、ということを知っているからです。ところが、英語を母国語とするネイティブにとっての「**common sense**」とは、人から教えてもらうことなく、そのもの自体を理解する能力のことを言います。言うなれば、専門的な知識を持つ人からどうすべきか教えてもらわなくても、その置かれた状況の中から何をすべきかを理解することができる人のことを、「常識ある人」と呼んでいるのです。誰もが持っているものとして使われる日本語の「常識」という表現に反して、英語のネイティブによって使われる「常識」とは、多くの人々が持ち得ないとされる特性を言うものなのです。事実、大学教授をはじめ、高度な教育を受けた人たちはこの「常識」というものを持っていないとされる典型的な人々だと言われていますがね。

さらに面白いと思うことは、「日本語的英語表現」で使われる「**common sense**」とは“人の集団”として知り得ていることに関係していて、英語のネイティブにとっての「**common sense**」は“個人の人間”として知っていることに焦点を当てている点です。この異なる2つの意味は、「**common**」ということばの存在の捉え方の違いによって生じています。「日本語的英語表現」の「**common sense**」で使われている「**common**」の反意語は『個人』であり、同義語は『共有』となります。一方、英語のネイティブにとっての「**common**」の反意語は『特別な・専門的な』であり、同義語は『普通』ということになります。このように日本語を母国語とする人々と、英語を母国語とする人々が、異なった観点から英語で表現をすることによって、私達の日米両文化が反響し合っていることを確かめ知ることができますね。つまり、そのことばの背景にある意味は、それぞれの文化と社会の中で、そこに住む人々によって生み出され、彼らの共有する認識事項として継承されていくものなのです。それは、私が「日本語的英語表現」というもの不思議さを感じ、かつそれが魅惑的であると感じた所以なんです。(完)

カリフォルニア通信 (カリフォルニア担当：照井)

【UCIに春が来ました】 3月9日から Daylight Saving Time (夏時間) に切り替わり、ますます日が長くなったかのように思うカリフォルニアの今日このごろです。今はカリフォルニアと日本との時差は 16 時間となりました。本格的な春の訪れと共に、ここ UCI (カリフォルニア大学アーバイン校) のキャンパスでも、木々の緑と草花の鮮やかな色彩が目を追って目につくようになりました。今月で冬学期も終わり、4月からは春学期が始まります。また、多くの留学生が UCI に集まってくるでしょう。最近では、日本から熟年層の方が留学生として UCI

にいらっしやるようになり、その数も少しずつ増えているようです。留学期間は1ヶ月から6ヶ月間の方が多いようですが、若い学生の中に交じって、毎日楽しそうにキャンパスライフを過ごされています。日本の生涯教育のあり方も徐々に確立されてきているようで、今後、“熟年留学生”の数も一層増えていくことでしょう。

南カリフォルニアの春は日本に比べて短いように思います。春が来たかなあ、とと思っているうちに暑さが増していき、本格的な暑さと共に夏が到来します。南カリフォルニアの青い空。Tシャツとスニーカーが似合う南カリフォルニア。そんな季節ももうそこまで来ているようです。

Siesta ちょっと、一休みしませんか…?

～ April Fool's Day (4月バカ) ～

4月1日はエイプリル・フールです。日本語では4月バカとも言っていますね。エイプリル・フールの諸説には確証的なものは無いと言われています。ですが一例として、1560年代のフランス(シャルル9世の時代)で、それまで3月25日を新年とするヨーロッパの暦から、今日のように1月1日を新年とする暦の採用に反発した人々が、4月1日を『嘘の新年』としてバカ騒ぎをした、と伝えている説があります。ともあれ、この日ばかりは『嘘をついても良い』という言い伝えが、いつしか人々の習慣になったようですね。欧米では、4月1日のTVやラジオ、新聞などのマスメディアを通じて、人々に大きな不安や危害を与えない(?)程度の『嘘やジョーク』を報道する習慣があるようです。さて、今年はどうな『嘘やジョーク』が飛び出すやら。世界中で経済危機と騒がれて以来、楽しい話題を報じる記事が減りました。こんな時だからこそ、我々が『ええッ!!』と驚き、お腹を抱えて笑えるほどのジョークが報じられることを期待します。

Help Line

FAQ

「TOEICのスコアは就職に有利ですか？」

A: 答えから先に言うと、結果的には有利だと思います。企業が留学生に期待することの中で、一番目に英語力を上げることが稀ですが、英語力があることに越したことはありません。どの程度の英語力があるのかを示す参考資料として、TOEICやTOEFLスコアが重宝とされる側面もあります。日本の学生の間では、「留学するならTOEFL、就職するならTOEIC」と言われています。JAAC生の皆さんは、留学生という立場から潜在的な英語能力を持ち合わせているのですから、半年から1年に一度の割合でTOEICやTOEFLの試験を受けると良いと思います。自分の英語力診断を定期的に行うことが、将来の皆さんにとって有意義なことであり、ひいては就職にも有利な資格になると思います。定期健康診断を毎年受けるつもりで、英語力診断も定期的に行いましょう。

【編集後記】 ●今回はJAACミズーリのLymanから「日本語的英語表現」についての記事が寄せられ、大変興味深く思いました。皆さんにより良く理解していただくために若干の加筆と編集を行いました。紙面の都合上、編集に思いのほか時間がかかりました。確かに、「ことばは文化」ですね▼日本でも春の訪れとともに本格的な「花粉アレルギー」のシーズンが到来しました。私もこの花粉には悩まされている一人です。ティッシュとマスクは欠かせませんね。(ハークションッ!) (照井)

Let me remind you . . .

★JAAC生の皆さん、保護者の皆さん、何でもお気軽にご相談ください

- ジョブフェアのご案内：“ロサンゼルスサマージョブフェア2009”が5月23日(土)・24日(日)に開催されます。詳しくは、<http://www.jobfair.jp/jp/> をご参照ください。
- ◆フリーウェイでの安全走行について：カリフォルニア州では、昨年(2008年)7月より運転中の携帯電話の使用が法令で禁止となりましたが、依然、違反ドライバーが多く、運転中の携帯電話使用が原因の通事故が後を絶ちません。JAAC生の皆さんにおかれましては、この法令を遵守し、普段から安全運転を心がけていただくようお願いいたします。
- ▼掲載記事の変更のご案内：本号の紙面の都合により、本号掲載予定だった「一期一会」は次号に掲載いたします。
- ▲カリフォルニア事務局からご協力のお願い：今年も新しい年度を迎えるにあたり、JAACカリフォルニア生の皆さんに「JAACカリフォルニア生連絡先・滞在先届出書(2009年度版)」への記入のご協力をお願いいたします。新井カウンセラーから面談日に同書をお渡ししますので、その際にご記入の上、提出してください。

●JAAC本部内保護者様専用ご連絡・ご相談窓口：

フリーダイヤル 0120-525-626 tokai@jaac.co.jp 担当：高瀬

©JAAC 日米学術センター 鈴木：t.suzuki@jaac.co.jp ©カリフォルニア担当：照井 k-terui@mtg.biglobe.ne.jp